

製品名: M-カドヘリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13702**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	89kDa

抗原情報

遺伝子名	CDH15
別名	CDH15; CDH14; CDH3; Cadherin-15; Cadherin-14; Muscle cadherin; M-cadherin
遺伝子 ID	1013.0
SwissProt ID	P55291
免疫原	抗血清はヒト CDH15 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

背景

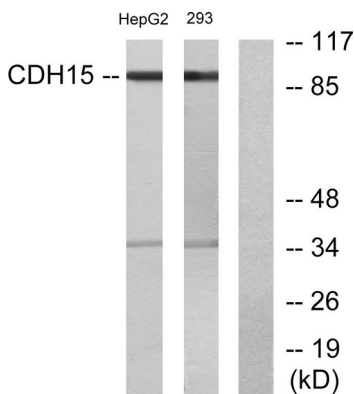
この遺伝子はカドヘリンスーパーファミリーに属し、カルシウム依存性細胞間接着糖タンパク質をコードする。カドヘリンは、5つのカドヘリンドメインを含む細胞外ドメイン、膜貫通領域、そして保存された細胞質ドメインから構成される。このカドヘリンからの

転写産物は筋芽細胞で発現し、筋管形成細胞では発現が亢進する。このタンパク質は形態形成過程、特に筋形成の制御に必須であると考えられており、終末筋細胞分化の引き金となる可能性がある。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患：重度の知的障害と顔貌異常を呈する患者において、CDH15 および KIRREL3 遺伝子に関連する染色体異常が認められた。転座 t(11;16)(q24.2;q24)。疾患：CDH15 遺伝子の欠陥は、常染色体優性遺伝性精神遅滞 3 型 (MRD3) [MIM:612580]の原因です。精神遅滞は、適応行動の障害を伴う、発達期に発現する、平均を著しく下回る全般的な知的機能が特徴です。機能：カドヘリンはカルシウム依存性細胞接着タンパク質です。細胞同士を接着する際に、カドヘリンは優先的にホモフィリックに相互作用するため、異種細胞型の選別に寄与している可能性があります。M-カドヘリンは筋形成プログラムの一部であり、終末筋分化の引き金となる可能性があります。類似性：5つのカドヘリンドメインを含みます。組織特異性：脳と小脳で発現します。、

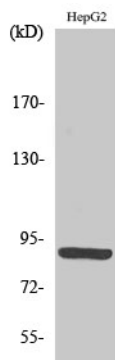
研究分野

細胞接着分子 (CAM)

画像データ



CDH15 抗体を用いた HepG2 細胞および 293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した M-カドヘリンポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析